

ヒトが豊かに生きるための野鳥保護

いろいろな野鳥が生活できる環境——それは、自然が豊かであるということです。山にトリが多いのは、そこにいろいろな樹木があり、きれいな水があり、いろいろな昆虫や小動物をはじめ、野生の生きものがたくさんいるからです。海にトリが棲んでいるのも、きれいな水、そこにいるプランクトン、それを食べる魚や、いろいろな生きものが棲み、そして生活しやすい海岸がいろいろなかたちであるからです。この自然のしくみの中で、野鳥は自然の一員としての役割をはたしています。

このような恵まれた自然環境では、豊かな植物が空気をきれいにしていますし、さまざまな生物が水をきれいにします。そして、ヒトに食べものを提供してくれます。私たちがこの豊かな自然の中へ出かければ、きれいな空気を吸って、青い空を眺め、鳥の声を聞き——健康的で、大きな安らぎを得ることができるでしょう。

野鳥がいるということは、豊かな自然があり、また、自然のしくみの微妙なバランスが保たれている証拠でもあります。その美しい声や姿は、お金では買えないものを私たちに与えてくれます。もし、このような自然が破壊されてしまったら、ヒトは生きていけるでしょうか。私たちが提唱している野鳥保護は、生命の重さを考えた自然保護です。トリもヒトもいっしょに生活できる豊かな自然を守っていくことです。

もっと広げたい野鳥保護の輪

野鳥を守るには、彼らが生活できるような自然環境を守ってやることです。巣をつくる場所、鳥が食べる昆虫、昆虫が食べる植物、そしてそれらを食べる天敵をふくむ自然をまるごと保護しなくては、野鳥は、生きていけません。また、このような環境

こそが、私たちヒトにとっても大切な環境なのです。

まず、私たちは、私たちの身のまわりでことに目を向けて、積極的にやってみましょう。巣箱をかけたり、庭へ野鳥を呼んだり、地域のまわりの野鳥を調べたり、そして、いま生きものが棲みよい環境にあるかどうかをきびしく見つめましょう。

自然をこわしつづけてきた日本。山をくずし、木を切り、海を埋めてきた日本。その結果がどんなおそろしいことになるか、私たちは、十分すぎるほど知らされてきました。トリを守ることは、ヒト自身をまもること——私たちは、ひとりからふたり、家族へ、友だちへ、グループへと、自然を守り、野鳥を保護する輪をひろげていきたいものです。その力が、県や国などの行政機関を動かします。

豊かな自然を守るのは、だれのためでもありません。たいせつな地球のいのちを、これ以上、失わせないこと——それは、人類全体の未来につながるテーマなのです。

■今月の野鳥 シロフクロウ

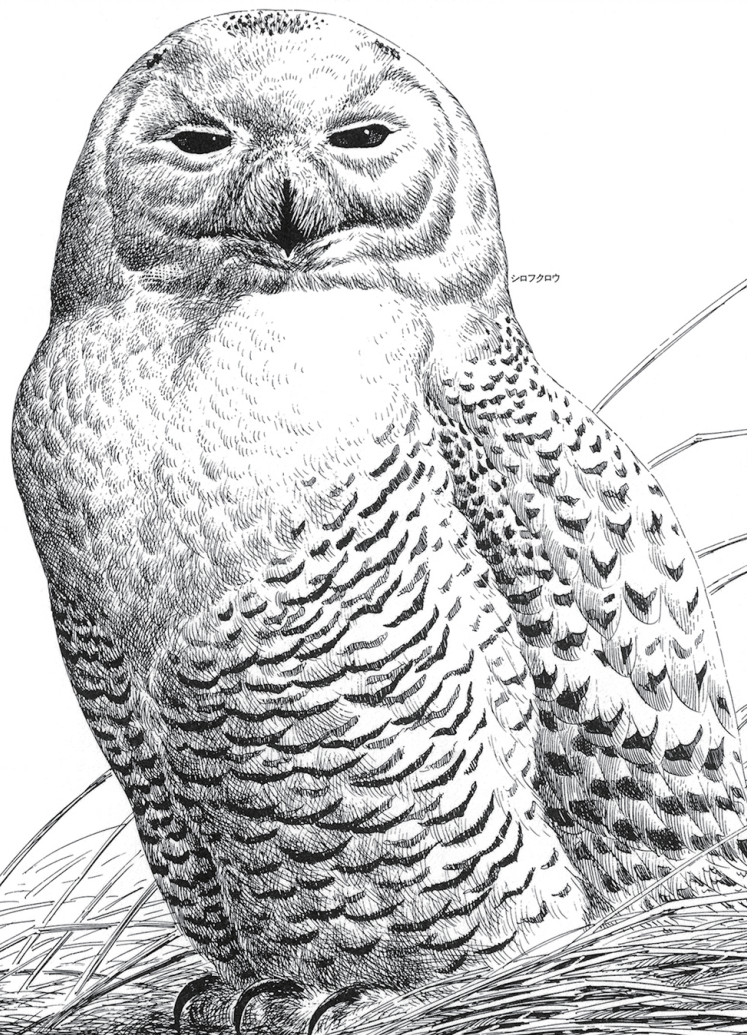
全長60cm弱。全身が白色で眼は黄色。早や幼鳥には褐色の横斑がありますが、体全体がまっ白なので、他種と間違えることはありません。冬、北海道などにごくまれに来るだけで、野鳥愛好家にとっては珍鳥です。吹雪の中で、地上にいるシロフクロウを見て、コドモが遭難しているノと思った人もいたそうです。



ヒトの目の前に「トリの保護区」を

財団法人 日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社がシリーズとして制作しています。



野鳥保護 いのち 生命の重さを考えて